

第9回コーラスフェスティバル in 和光に出演

標記演奏会が、2019年4月14日(日)、和光市民文化センター「サンアゼリア大ホール」において開催された。

志木グリークラブは、初谷敬史先生の指揮で「手に手を取りあい」「緑の森よ」「おおひばり」の3曲を演奏した。

サンアゼリア周辺の桜の花も散りはじめ、路上には桜の花弁が落ちピンクの絨毯を敷き詰めたようだった。天候は、薄日が差す穏やかな一日であった。

演奏会は、13時30分に開演し、1部と2部に別けて行われ、18団体が参加した。

内訳は、女声合唱が11団体、混声合唱が4団体、男声合唱が3団体であった。

その中で、アカペラで歌ったのは、志木グリークラブだけであった。

例年どおり、各団体が演奏した合間に合同演奏が組み込まれ、男声合唱団3団体(MFグリークラブ和光、志木グリークラブ、ドン・キホーテ男声合唱団)は、オナーティンの「ふるさと」を布施先生の指揮で演奏した。

(詳細は、後掲「プログラム」参照)

当日は、10時45分に和光市民文化センター前市役所入口に集合し、体をほぐした後、練習した。我々は、前日までに何回も何回も練習していても、2歩歩くと殆どのことを忘れてしまい、演奏会当日になってもシッカリ練習しなければ、なかなか調子が出ないのが特長で<笑>、今回は短時間であったが、気合を入れて何回も事前練習を行った。

志木グリークラブは、1曲目に「手に手を取りあい」を歌った(団員10名参加)。

この曲は、メンデルスゾーン作曲の三つの民謡(「手に手を取りあい」「霜がおりて」「其の墓の上で」)の内の第1曲である。(なお、3曲とも日本語の歌詞で歌った)

この曲を練習する時、初谷先生は『この歌は、恋人たちが駆け落ちをする時を歌った歌なのでその情景、雰囲気を感じられるような歌い方をして下さい』と言われた。特に出だしの「手に手を取りあい逃げていかないか・・・」は、P(ピアノ)で歌い始め、声を潜めてなお且つテンションをあげて、コッソリと駆け落ちをするように歌うこと。と指導されたが、駆け落ち経験の無い我々お爺さん達にとっては、想像して歌うしかなかった<笑>。

曲全体を通しては、P(ピアノ)とf(フォルテ)の違いをハッキリ出し、legato(滑らか)とleggiero(軽やかで優美に)を際出せること。Pを歌う時のプレスとfを歌う時のプレスの仕方が違うことを意識すること、と指導された。プレスの仕方の違いは、実際にやってみると大いに参考になった。なるほどと納得した。

訳詞は、吉田秀和氏であるが、歌詞の意味が良く分からない、特に2番の歌詞の解釈に梃子摺った。“父母の家(ちちははのいえ)”とは、誰の家のことか?“他郷となるだろう”の意味は何か? 侃々諤々の議論末、初谷先生がドイツ語の詞を忠実に訳すことで、彼女の実家であることと結論づけた。団員のなかには歌詞の意味が分からないので、何度練習しても歌詞が覚えられないと訳詞(吉田氏)のせいにする者がいた<笑>。今回は、暗譜でなく楽譜を持ってステージに載ることにしたが、楽譜を持って出ても本番では間違える者が出た。

詞 ハイネ (Heinrich Heine)

1. Entflieh mit mir und sei mein Weib
und ruh an meinem Herzen aus
in weiter Feme sei mein Herz
dir Vaterland und Vaterhaus
2. Und fliehst du nicht so sterb ich hier
und du bist einsam und allein
und bleibst du auch im Vaterhaus
wirst doch wie in der Fremde sein

訳詞：吉田 秀和 作曲：Felix Mendelssohn (1809～1847) 編曲 三枝 成彰

1. 手に手をとるあい 逃げていかないか
私の胸こそ そなたのふるさと
私の胸こそ そなたのふるさと
2. そなたが行かずに 私が死んだら
父母の家も 他郷となるだろう
父母の家も 他郷となるだろう

2曲目に歌った「緑の森よ」は、メンデルスゾーン作曲「野に歌う6つの歌」の第3曲 (abschied vom Walde)である。

この曲は、世の中に散歩が生れた頃（19世紀初頭？）に作られた曲とのことである。かのベートーヴェンは、散歩をするようになったはしりとのことである。交響曲第6番「田園交響曲へ長調」は、1808年に完成したが、ベートーヴェンは田園を好み、ウィーンでは近郊を歩き回り（散歩して）、夏は田舎に住んで大自然を楽しんだそうである。そこでの風景を「田園交響曲」として作曲したものと思われる。＜私見＞

この曲に対する初谷先生のご指導は、音符は音符どおりの長さに伸ばし、充実した声で歌うこと。出だしのユニゾンで始めるところもP（ピアノ）で朗々と歌い始めること。この曲は、pとf（フォルテ）の対比を明確に歌い分け、なお且つdimのところは、十分にユックリするように歌うこと。等であった。

良い響きのあるハーモニーを出すためには、声部内の音とパート間の音のタイミングを合わせ、音程を正しくシカッリ出し、声質を揃えることが大切であると。指導を受けた。

原詩：Joseph von Eichendorff(1788～1857)

O Thaler weit o Hohen o Schoner gruner Wald
Du meiner Lust und Wehen andachtger Aufenthalt
Da draussen stets betrogen saut die geschäftge Welt
Schlagnoch einmail die Bogen um mich du grunes Zelt

訳詞：緒園 涼子(おぞの りょうし、本名：内藤健三)

作曲：メンデルスゾーン 編曲：三枝 成彰

1. 緑の森よ 我は歌わん

汝(なれ)は こよなき我が憩いと

永き冬の日 嵐に傷(め)げ

梢は寒く 雪を呼べど

春風吹けば 蘇(よみがえ)りぬ

2. 緑の森よ 我は歌わん

汝(なれ)は こよなき我が憩いと

小(お)暗き森の 樹々は繁り

強き真夏の 陽は驕(おご)れど

梢を延べて 木陰なしぬ

3曲目は、「おおひばり」(1839年作曲)を歌った。この曲は、女声合唱や混声合唱で、ピアノ伴奏付きで歌われることが多いが、今回我々はアカペラで歌った。

この曲は、カノンなのでテノールとバリトンが歌い出し、11章節からセカンドテノールとベースが追っかけて歌う様式である。跳躍音程が多く出てくるので、音程、リズム、拍数をキチッとしないと、曲が崩れてしまう。しかも、P(ピアノ)とf(フォルテ)の違いを明確に出すように指導された。テンポのある曲なので言葉をキッチと入れることが難しい。子音の捌き方も難しく、母音と比べてスピードが落ちる。また、最後のコーダのところは、初谷先生の指揮を見ていないことが多く、テンポが合わず大変苦労をした。みんなが、楽譜に噛り付いているので初谷先生は「私がキッチと振っているので、私の方を見て歌って下さい。そのためにここに立っているのですから」と何度もお叱りを受けた。

原詩 Lerchenge Sang(Op.48 No.4)

Wie lieblicher Klang o Lerche dein Sang

Er hebt sich er schwingt sich in Wonne

Du nimmst mich von hier

Ich singe mit dir wir steigen durch Wolken zur Sonne

作詞：高野 辰之 作曲：メンデルスゾーン

おお雲雀 高くまた軽(かろ)く 何かを歌う

天の恵み 地の栄え

そを称えて歌い

そを寿(ことほ)ぎ歌う

恵み称え 栄え寿ぎて歌う

第9回

コーラスフェスティバル

in 和光



2019年4月14日(日) 13:30開演

和光市民文化センター サンアゼリア大ホール

主催:コーラスフェスティバル in 和光実行委員会

助成:(公財)和光市文化振興公社 後援:和光市教育委員会

【 第一部 】

1	混声泉コーラス	みどりの風に 作詞/岡田重信 作曲/源田俊一郎	指揮 岩國弘文 Pf 山崎愛
2	女声合唱団 翠声会 I組	壁きえた 作詞/谷川雁 作曲/新実徳英 潮音 作詞/島崎藤村 作曲/平井康三郎 くちなしの花 作詞/数田義雄 作曲/平井康三郎	指揮 海藤晴子 Pf 小島知恵
3	アンサンブル バカラ	小さな喫茶店 作詞/青木爽 作曲/レイモンド この空を飛べたら 作詞・作曲/中島みゆき	指揮 脇田美保子 Pf 清水孝江
4	MF グリークラブ和光	箱根の山 作詞/鳥居枕 作曲/滝廉太郎 帰る帰る 作詞/北原白秋 作曲/山田耕祥 君といつまでも 作詞/岩谷時子 作曲/弾厚作	指揮 布施忠良 Pf 鈴木康子
♪	合同演奏 4&8&16	ふるさと	
5	志木混声合唱団	「キャッツ」より 訳詞/海野洋司 作曲/ウエーバー メモリー 演歌メドレー 編曲/室伏正隆	指揮 室伏正隆 Pf 山崎愛
6	アンサンブル SOLA	バラピンバ 訳詞/中山知子 イタリア民謡 ふるさとは今もかわらず 作詞・作曲/新沼謙治	指揮 脇田美保子 Pf 小室緑
7	コール・ソアール	なぎさ 作詩/木下宣子 作曲/朝岡真木子 今日もひとつ 作詩/星野富弘 作曲/なかにしあかね	指揮 武かほる Pf 利根川正子
8	志木グリークラブ	手に手をとりあい 訳詞/吉田秀和 作曲/メンデルスゾーン 緑の森よ 訳詞/緒園涼子 作曲/メンデルスゾーン おおひばり 作詞/高野辰之 作曲/メンデルスゾーン	指揮 初谷敬史
9	Dolce 合唱団 ♪	ぜんぶ 作詞/さくらももこ 作曲/相澤直人 夢の大地 作詞・作曲/梶浦由記	指揮 阿部朋子 Pf 菊池菜摘美
10	女声コーラス 彩音	最後の歌 作詞/チンミーノ 作曲/トステイ 「いのちの寓話」より 私の中の誰かさん 作詞/宮本益光 作曲/信長貴富	指揮 小屋敷真 Pf 小笠原貞宗
♪	合同演奏 2 & 7 & 9 & 10 & 12	花の街	

【 第二部 】

♪	全員合唱 会場の皆様と一緒に	見上げてごらん夜の星を	
11	朝霞混声合唱団	ぜんぶ 「花に寄せて」より ばら・さく・なずな 一母に捧ぐー	指揮 坂本恒太 Pf 金原理恵子
12	コール・リボン	心の瞳 一本の鉛筆	指揮 宮地多美子 Pf 武井千栄子
13	アンサンブル フェリーチェ	また君に恋してる 蘇州夜曲 みやこわすれ	指揮・Pf 武石玲子
14	和光混声合唱団	「7つの子供の歌」より つきよ げんきなこども ねえねえ、おじいさん ひつじのむすめ パパ おふねも	指揮 宮本英一郎 Pf 近藤香織
♪	合同演奏 1&5&11&14&15	「旅」より かごにのって	
15	イル・カント・デル・クオーレ	寺山修司の詩による「思い出すために」より 世界のいちばん遠い土地へ トルコ行進曲	指揮 前中榮子 Pf 宮崎香織
16	ドン・キホーテ男声合唱団	「愛する歌」より 雪の街 犬が自分のしっぽをみて笑う歌 誰かがちいさなベルをおす	指揮 河田修朗 Pf 古郷由利子
17	シャンテ・カフェ	故郷の歌メドレー 故郷の人々～故郷の空～故郷の廃家～ 故郷 太陽がいっぱい あの素晴らしい愛をもう一度	指揮 布施忠良 Pf 鈴木康子
18	クリスタル ハーツ	ルビーの指環 ウェディング・ベル	指揮 脇田美保子 Pf 小笠原貞宗
♪	合同演奏 3&6&13&17&18	この街で	
♪	全員合唱 会場の皆様と一緒に	みどりのそよ風	

以上